

レッスン15 銀行と信用創造

(1) 現物のお金の誕生

現物のお金が新たに誕生するルートは一つしかありません。1万円札には「日本銀行券」と書いてあります。お金の親は日本銀行です。銀行などの金融機関は、日本銀行に日銀当座預金口座を開いています。個人が銀行のATMで自分の普通預金口座から現金を出してくるよう、銀行も日本銀行へ行つて、自分の口座から現金を引き出してくることができます。このとき、新たな現物紙幣がこの世に誕生する訳です。このようにして誕生したお金は「日本銀行券発行残高」として把握されることとなります。現物のお金としてはこれ以外に100円硬貨といったコイン（補助通貨）もあります。これらに準備預金を加えると現物のお金の総額になります。この総額はマネタリー・ベースまたはベースマネーと呼ばれます。

(2) 銀行の信用創造機能

経済が大きくなるにつれ、通貨（お金）の量は増えていきます。このメカニズムを説明しましょう。世の中全体のお金の量が増えるのは、基本的に、金融機関が「貸出（融資）」という業務を行うことによります。例えば、ある大金持ちの人が10億円をX銀行に預金するとしましょう。銀行は預かった預金を預金より高い金利で貸し出すことで利益を上げるビジネスですから、10億円も新たな預金を受け入れれば、それを貸出すことになるでしょう。例えば、X銀行がA社に9億円融資（貸し出し）するとしましょう。A社はビジネスで使うために融資を受けたはずですから、それを何らかの支払いに充てるでしょう。例えば、Y銀行にある甲社の普通預金口座に全額振り込んだとします。するとY銀行も同様にそれを融資します。Y銀行が8億円B社に融資するとしましょう。B社もA社同様、例えばZ銀行の乙社の口座にそれを振り込んだりするはず。するとZ銀行はそのうちの7億円をC社に融資するでしょう・・・このようにして、預金が銀行の融資を生み、その融資がまた預金を生み、・・・という形で預金がどんどん増えていきます。預金が増えれば、その一部は銀行の「日銀当座預金」になるのでそれが現金で引き出されれば、現物としてのお金を増やすことにもなります。このようにして、銀行の貸し出しというルートを通じて預金が増えることにより、世の中の通貨が増えていくのです。銀行のこのようなお金を増やす機能のことを、銀行の「信用創造機能」といいます。

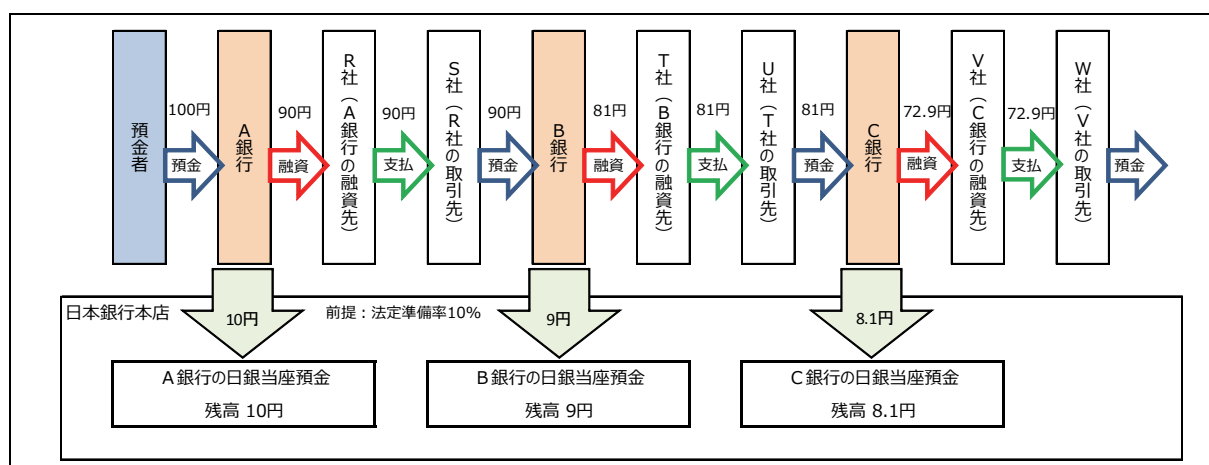
(3) マネタリー・ベースとマネーストックの関係

日銀はある程度、銀行の日銀当座預金残高を増減させることができます。例えば、日銀がある銀行の日銀当座預金を増やすとどうなるでしょう。その銀行が準備預金を十分持っている銀行ならば、日銀当座預金を融資などに回そうとするはずで、すると、前に説明した「銀行の通貨創造機能」によって、通貨が増えていくことが期待されます。よって、理論的にも、そして現実的にも、世の中の通貨流通量、すなわちマネーストックは、マネタリー・ベースの何倍にもなる訳ですが、もし、マネーストックとマネタリー・ベースの比率（これを信用乗数といいます）が一定だとするならば、日銀はマネタリー・ベースの調節を通じて、マネーストックの量も調節できることになります。現実には信用乗数は一定ではないので、上のような考えは必ずしも正しくはないのですが、「日銀はある程度、世の中全体のお金の量（マネーストック）を調節できる」といえるでしょう。世の中の良いときは、金融機関の貸出も増えることが普通ですから、当然マネーストックも増えることが予想されます。また、経済の実態に比較してマネーストックが多すぎる場合は、それだけある意味「無用な」お金が多いことを意味する訳で、モノに対して相対的にお金の価値が下落し、物価高を招くことも考えられます。このようにマネーストックは経済の重要指標であり、日銀が金融政策を行っていく上での一つの重要な指標となっています。

ここで、銀行の信用創造機能を具体例をもって示します。図表 3 2にあるとおり、法定準備率を 10% と仮定した場合、最初の預金 100 円は、次のように増えていき、最終的には（数学的には）1,000 円として経済全体に貢献することになります。

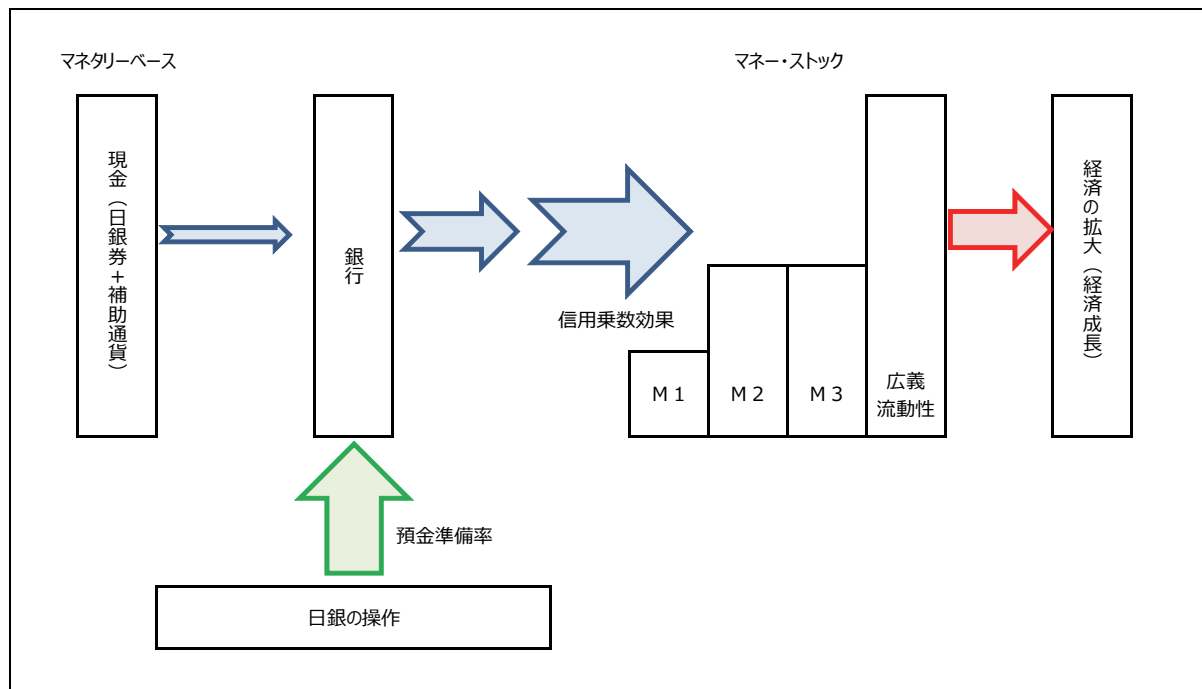
$$100 \text{ 円} + 90 \text{ 円} + 81 \text{ 円} + 72.9 \text{ 円} + \dots = 1,000 \text{ 円}$$

図表 3 2 銀行の信用創造機能（法定準備率 10%を前提の計算）



このケースでいえば、最初の預金 100 円はマネタリー・ベース、1,000 円はマネーストックに相当します。そして、信用乗数が 10 倍 (=1000÷100) の経済になっていると解釈できます。このことから、原理的には、法定準備率操作によって信用乗数のコントロール、ひいては経済拡大ペースのコントロールが可能になります。

図表 3 3 お金と経済成長



関連サイト

- ・ 日本銀行：マネタリー・ベース

<http://www.boj.or.jp/statistics/boj/other/mb/index.htm/>